

第2次芦屋釜の里振興計画(素案)



平成30年〇月

芦屋町・芦屋町教育委員会

第2次芦屋釜の里振興計画

～目次～

第1章	第2次芦屋釜の里振興計画策定の趣旨	1
1-1	振興計画策定の趣旨	1
1-2	振興計画の位置づけ	1
1-3	振興計画の期間	1
第2章	芦屋釜の里に関する現状と課題	2
2-1	芦屋釜の里の利用状況	2
2-2	芦屋釜の里の活動状況	3
2-3	芦屋釜の里の課題	4
第3章	芦屋釜の里振興計画の基本的考え方	6
3-1	基本理念	6
3-2	基本目標	6
3-3	施策の体系	7
第4章	芦屋釜の里振興に向けた施策	8
4-1	①茶の湯釜の製作、鋳物師の養成及び独立支援	8
	②芦屋釜及び芦屋釜復興の周知活動	9
	③芦屋釜をはじめとする鋳物製品の調査・研究	9
4-2	①茶の湯文化の振興	9
	②生涯学習の推進	10
4-3	①観光資源としての活用	10
	②鋳物の特産品開発・製作及び周知	11
第5章	計画の推進体制	12
5-1	庁内推進体制の整備	12
5-2	住民参加による計画の推進	12
5-3	計画の進行管理	12

第1章 第2次芦屋釜の里振興計画策定の趣旨

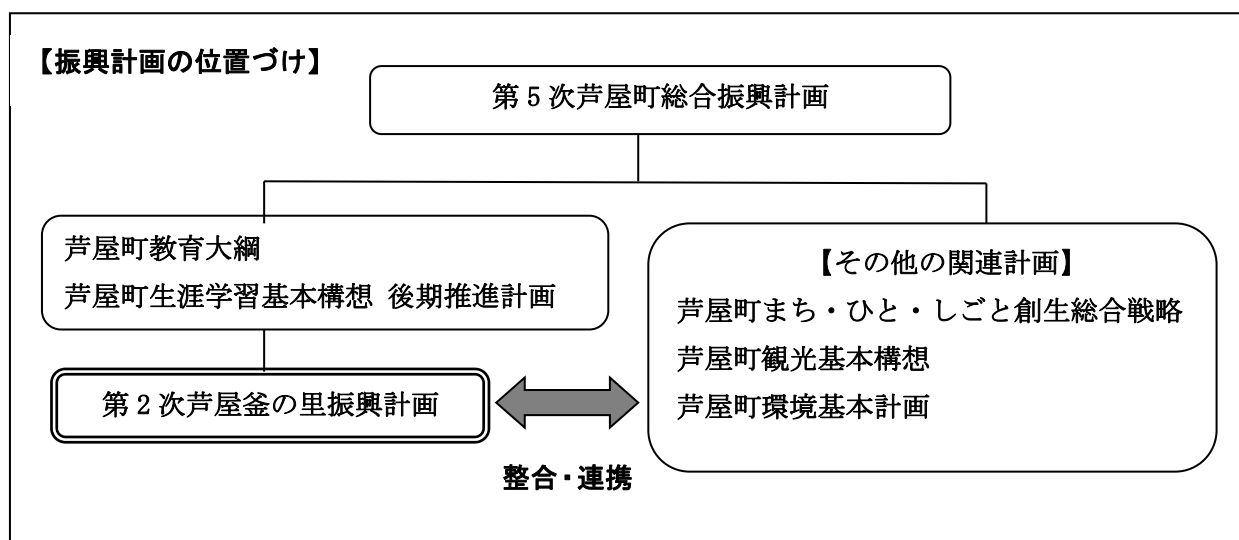
1-1 振興計画策定の趣旨

芦屋釜の里は、芦屋釜の復興を目的として平成7（1995）年に開園しました。それを実現するため、これまで全体計画として「芦屋釜の里 管理と運営」（平成6年7月）、鋳物師の養成計画として「芦屋釜の里基本計画パート1 芦屋釜の復興に向けて～鋳物師育成の実行計画～」（平成11年8月）を策定し、これらを統合する形で増補・改訂した「第1次芦屋釜の里振興計画」（平成17年3月）を基に、事業を進めてきました。

「第2次芦屋釜の里振興計画」は、「第1次芦屋釜の里振興計画」の成果等を踏まえて、現状や課題を整理し、今後の芦屋釜の里の活動の指針となる基本的な考え方や具体的施策を示すため、計画を策定するものです。

1-2 振興計画の位置づけ

この計画は、「第5次芦屋町総合振興計画」及び「芦屋町教育大綱」、「芦屋町生涯学習基本構想 後期推進計画」に基づき、芦屋釜の復興及び芦屋釜の里の取り組みを推進するための基本計画となるものです。あわせて、芦屋町の関連諸計画との整合・連携を図りながら、計画期間内の芦屋釜の里の具体的施策を示すものです。



1-3 振興計画の期間

本計画は、平成30（2018）年度から2027年度までの10カ年を計画期間とします。

なお、社会情勢の変化や施策の動向などを踏まえて、必要に応じて計画の見直しを行います。

第2章 芦屋釜の里に関する現状と課題

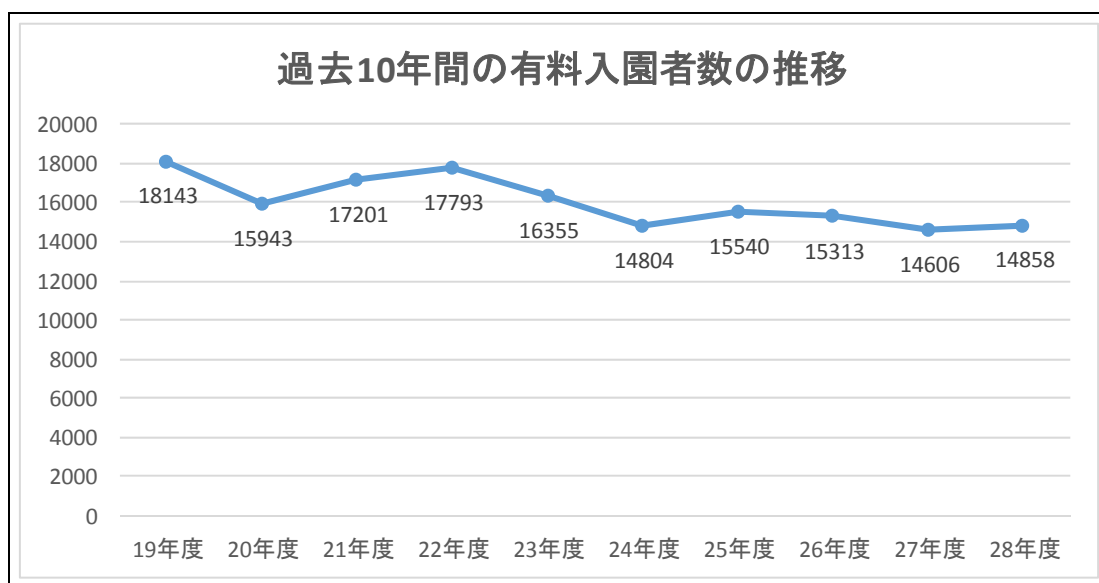
芦屋釜の里では、「第1次芦屋釜の里振興計画」に基づき、芦屋釜の復興及び芦屋釜の里の運営に取り組んできました。ここでは、これまでの取り組みの中で把握した情報等をもとに、現状と課題を述べます。

2-1 芦屋釜の里の利用状況

芦屋釜の里は、芦屋釜の復興を目的として平成7（1995）年5月に開設されました。過去10年間の有料入館者数の推移を見ると、平成19（2007）年度をピークに徐々に減少しており、現在は年間15,000人前後で推移しています。

平成29（2017）年度に芦屋町が実施した「芦屋町コミュニティ活動状況調査」をみると、町の取り組みに対する住民の評価として、「歴史・文化の振興」については、前回（平成24（2014）年度実施）と比べ満足度は0.09ポイントアップの2.91、重要度も0.06ポイントアップの2.72となっています。総じて「満足度が高く、重要度が低い取り組み」に位置づけられており、前回と変わっていません。このことから、今後、芦屋町民の誇りをさらに喚起するような施策や施設のあり方が求められます。

また、平成28（2016）年に実施した「芦屋町公共施設等に関する住民アンケート」では、文化系施設（芦屋釜の里・芦屋歴史の里）の利用状況として、年間に利用しなかった人の数が65.6%に及んでおり、町民の利用促進が十分でない状況がわかります。また、文化系施設を利用する場合に最も重視することとして、イベント等の内容の充実が47.4%を占めています。これらのことから、魅力的なイベントの実施が求められていることがわかります。



2-2 芦屋釜の里の活動状況

芦屋釜の里では、これまで3つの基本目標を軸として、各種事業を実施してきました。

【基本目標1】

調査・研究・製作を通して、郷土の生んだ偉大な工人の足跡を顕彰し、その創意工夫と心意気を紐解き、次世代へ継承する場とする。

①茶の湯釜の製作・鋳物師の育成

- 芦屋釜の復元製作及び釜以外の鋳物製品（鐘・鰐口等）の製作。
- 鋳物師の育成及び独立支援。

②芦屋鋳物の調査・研究

- 芦屋鋳物に関する調査の実施及び報告書の刊行。
- 執筆や講演等の普及活動。
- 他機関との共同研究・実験の実施。

【基本目標2】

工房において製作された茶の湯釜の活用を図ると共に、茶の湯文化の振興を図る。

①製作品の活用

- 芦屋釜の里での釜展示、茶会での使用。
- 外部展覧会における芦屋釜の里製作釜の展示。
- 外部茶会への芦屋釜の里製作釜の貸出。



体験茶会の様子

②茶の湯文化の振興

- 毎年、町内の幼・保育園児、小・中学校児童・生徒の体験茶会を実施。
- 芦屋釜の里での茶会の開催（開園記念茶会、七夕茶会、ひなまつり茶会等）。
- 小・中学校の学校茶道クラブへの支援。

【基本目標3】

芦屋町内における生涯学習を推進すると共に、町外への周知・啓発を図るため、観光にも対応した文化施設を目指す。

①生涯学習の推進

- 各種講座を実施（子ども鋳物体験、子ども茶道寺子屋、和室でのお茶とマナー講座、鋳物ワークショップ等）。
- 文化ふれあい事業の一環としてコンサートを開催。
- 芦屋釜の里サポーターズクラブ※の活動支援。

※芦屋釜の里サポーターズクラブとは

芦屋釜の里の活動を支援する目的で、平成16（2004）年に設立されたボランティア団体。

②観光への対応

- 芦屋釜の里オリジナルグッズの製作・販売（一筆箋、工房製作品等）。
- 登録者へのダイレクトメール送付等により施設への来園を促進。

2-3 芦屋釜の里の課題

芦屋釜の里では、これまで「第1次芦屋釜の里振興計画」に基づき、様々な活動を行ってきました。それらの活動から、下記のような課題が見えてきました。

○鑄物師の技術継承

芦屋釜の里では、全国に残る芦屋釜の調査を行い、その研究を基に芦屋釜製作技術の復元を行ってきました。今では、室町時代の芦屋鑄物師が製作した芦屋釜に極めて近い現代の芦屋釜もでき始めています。

これまでの鑄物師養成の結果、平成25（2013）年度には16年間の養成期間を終え（町雇用嘱託員としての任用期間が終了し）、鑄物師1名が独立しました。また、2021年度にはもう1名の鑄物師が、養成期間を終えて独立する計画となっています。

これまで長期間かけて培った芦屋釜の製作技術を、次世代に継承するための具体的方策が求められています。



釜の鑄込みの様子

○芦屋釜の里の町民利用の促進

平成28（2016）年に実施した「芦屋町公共施設等に関する住民アンケート」では、文化系施設（芦屋釜の里・芦屋歴史の里）の利用状況として、これらを年間に利用しなかった人の数が65.6%に及んでいます。町内の幼・保育園や小・中学校の体験茶会等の取り組みにより、若年層は非常に高い利用率がありますが、成人の利用率が低い状況です。

このことから、町民の芦屋釜の里の利用促進を図り、芦屋釜や芦屋釜の里への理解を高めることが課題となっています。

○芦屋釜の里の観光資源としての活用

「芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「芦屋町観光基本構想」では、芦屋釜の里の集客の仕組みづくり、来園者の滞留時間の向上と町内回遊の仕組みづくり、鑄物師と連携した体験プログラムの創出等を行うことで、芦屋釜の里の観光資源としての活用が求められています。



抹茶点て体験の様子

○芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物に関する特産品の創出

「芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「芦屋町観光基本構想」では、芦屋釜ブランドの認知向上や芦屋釜に関連した土産品等の開発の取り組みが挙げられています。

また、平成 28（2016）年度、地域を挙げて支援を行う芦屋町の「ふるさと名物※」として「芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物」を特定し、芦屋町が「ふるさと名物応援宣言」を行いました（「ふるさと名物応援宣言」は中小企業庁が推進）。

これまでも、芦屋釜の里では工房で鋳物製品を開発・製作し、販売を行ってきましたが、種類・数量等が限定されている状況です。

そこで、芦屋ならではの特産品を創出するため、芦屋町役場の関係各課や芦屋町観光協会、芦屋町商工会等と連携し、芦屋釜に関連した土産品や芦屋鋳物の開発、製作、周知等の取り組みが一層求められています。



工房で製作した錫製盃

※ふるさと名物とは

福岡県が指定した地域産業資源から、地域の中小企業者が活用可能なものを特定し、地域ぐるみの継続的な取り組みを通じて、「地域ブランド」の育成・強化を図り、地域売上や雇用の拡大、地域経済の好循環につなげるため、町を挙げて支援を行っていくものです。

第3章 芦屋釜の里振興計画の基本的考え方

芦屋釜の里を取り巻く状況の変化や課題などを踏まえ、基本的な方針を以下のとおり定めます。

3-1 基本理念

茶の湯釜の製作を中心とした芦屋鋳物の復興を目指し、あわせて、地域において文化的機運を醸成し、芦屋釜を代表とする優れた文化遺産が身近にあることへの誇りと認識を育てると共に、町の観光振興に寄与することを目指す。

3-2 基本目標

<基本目標1>

鋳物師の養成及び独立支援を行い、技術の向上・確立と次世代への技術継承を図る。

平成7(1995)年度の開園以来、芦屋釜の調査・研究とそれに基づく復元製作を進めてきました。近年では釜の製作技術も安定し、鋳造の成功率は高くないものの、室町時代に極めて近い現代の芦屋釜もでき始めています。また、既に鋳物師1名が独立し、2021年度にはもう1名の鋳物師養成員も独立します。そこで、鋳物師の養成や独立支援を行うとともに、釜の製作技術をさらに向上・確立させ、これまで培った技術を次世代に継承することを目指します。

あわせて、芦屋釜復興の全国的な周知を図るとともに、芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物研究の更なる進展を図ります。

<基本目標2>

町民の文化的機運の醸成及び生涯学習の推進を図り、シビックプライドの醸成に寄与する。

日本の伝統文化である茶の湯文化を知らしめることで、芦屋釜が伝えられてきた背景にある茶の湯に関する意識を高め、町民の文化的機運を醸成するとともに、各種講座やイベント・交流事業等の様々な体験や学習を通じて、生涯学習の推進を図ります。これらを通して、芦屋釜や芦屋釜の里が地域の誇りとして認知され、町民に町への誇りや愛着が醸成されることを目指します。

＜基本目標 3＞

芦屋釜や芦屋釜の里を観光資源として活用し、地域の観光振興に貢献するとともに、芦屋釜や鋳物に関連する地域ブランドを創出する。

芦屋釜の里は、芦屋釜復興を主目的とする文化施設としての役割だけでなく、町の観光拠点としての役割も求められています。そこで、町の観光拠点の一つとして、来園者の増加を図り、町内での観光を促進することで、地域の観光振興への貢献を目指します。また、芦屋釜の里工房で製作された鋳物製品が芦屋町の代表的特産品となるよう、開発・製作と周知を図ります。

3-3 施策の体系

基本理念及び基本目標を実現するため、下記の芦屋釜の里振興のための方策に取り組みます。

＜基本理念＞

茶の湯釜の製作を中心とした芦屋鋳物の復興を目指し、あわせて、地域において文化的機運を醸成し、芦屋釜を代表とする優れた文化遺産が身近にあることへの誇りと認識を育てると共に、町の観光振興に寄与することを目指す。

＜基本目標 1＞

鋳物師の養成及び独立支援を行い、技術の向上・確立と次世代への技術継承を図る。

＜基本目標 2＞

町民の文化的機運の醸成及び生涯学習の推進を図り、シビックプライドの醸成に寄与する。

＜基本目標 3＞

芦屋釜や芦屋釜の里を観光資源として活用し、地域の観光振興に貢献するとともに、芦屋釜や鋳物に関連する地域ブランドを創出する。

＜施策＞

- ①茶の湯釜の製作、鋳物師の養成及び独立支援
- ②芦屋釜及び芦屋釜復興の周知活動
- ③芦屋釜をはじめとする鋳物製品の調査・研究

＜施策＞

- ①茶の湯文化の振興
- ②生涯学習の推進

＜施策＞

- ①観光資源としての活用
- ②鋳物の特産品開発・製作及び周知

第4章 芦屋釜の里振興に向けた施策

芦屋釜の里では、基本理念及び基本目標の達成に向け、次のような施策に取り組んでいきます。

4-1 基本目標1

鋳物師の養成及び独立支援を行い、技術の向上・確立と次世代への技術継承を図る。

①茶の湯釜の製作、鋳物師の養成及び独立支援

『第1次芦屋釜の里振興計画』に基づき、第1次指導委員会で定義された芦屋釜の復元の要件をクリアするべく、製作を行ってきました。平成24(2012)、25(2013)年度には日本の工芸界を代表する識者を招聘して、第2次指導委員会を開催し、復元作品について一定の評価を得ることができました。今後は成功率の向上に向け、更なる技術の確立を図っていきます。

平成9(1997)年から鋳物師養成を行っていますが、平成25(2013)年度には鋳物師1名が独立し、2021年度には、さらに1名の鋳物師が独立する計画です。芦屋釜復興事業の実現のためには、製作体制の安定が不可欠であり、また再び途絶えないよう、後継者に技術を引き継ぐことも必要です。そこで、鋳物師養成員の独立に対する支援策を実施します。また、独立した鋳物師の地場化※に向けた取り組みへの支援及び助言も行います。

※地場化とは

芦屋釜の里工房において茶の湯釜製作技術を習得した鋳物師が、芦屋町内において工房を構え、鋳物業で生計を立てながら独立した状態をいいます。地場化を図ることで、鋳物師がそれぞれの工房で後継者を育て、鋳物の技術を継承し、芦屋釜復興事業が永続的なものとなることを目指します。

地場化に必要なものとして、①工房、②設備、③工房建設用地、④運転資金、⑤茶の湯釜製作についての技術的裏づけ、⑥顧客の確保、⑦技術保存・継承のための制度確立及び工房従事者の確保、⑧芦屋町民の理解 が考えられます。

○具体的施策

- ・ 芦屋釜復元技術の更なる向上と確立
- ・ 鋳物師養成員独立時の芦屋釜の里工房使用許可の検討・実施
- ・ 独立した鋳物師の地場化に向けた支援内容の検討・実施
- ・ 工房業務従事者の採用

②芦屋釜及び芦屋釜復興の周知活動

芦屋釜の復興を推し進めるためには、芦屋釜及び芦屋釜の復興について広く周知を図る必要があります。また、茶道界をはじめとする茶の湯釜の需要者に向けての周知も欠かすことができません。

そこで、様々な手段・機会を通じた、芦屋釜及び芦屋釜復興の全国的周知を図ります。

○具体的施策

- ・メディア等を活用した周知活動の実施
- ・美術館等の展覧会への出品促進
- ・茶道関係の機関誌掲載の実施
- ・各種講演要請に対する講師派遣の実施

③芦屋釜をはじめとする鋳物製品の調査・研究

芦屋釜の里では、全国に残る芦屋釜や芦屋鋳物師の作品調査・研究を行っています。調査が進むにつれて芦屋鋳物師の作品調査だけでなく、各地域、各時代の鋳物製品との比較も重要であることがわかってきました。また、近年では鋳物の研究と製作を行う全国でも珍しい施設として、国内外から調査や実験依頼を受けることも増えています。

そこで、芦屋鋳物師の作品と他地域の鋳物製品との比較等を行い、芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物の更なる調査・研究を進めます。あわせて、外部研究機関からの協力依頼に応じて実験・調査等を行うなど、鋳物の研究拠点としての役割を担うことで、鋳物の専門的研究を進めます。それらによって明らかになった研究成果について、図録や報告書、展示、講座等を通して、町内外への周知を図ります。

○具体的施策

- ・他地域の鋳物製品との比較等を通じた芦屋鋳物の調査・研究の充実
- ・外部研究機関に対する実験・調査等研究協力の実施
- ・図録、報告書の作成
- ・作品展示、教養講座の実施

4-2<基本目標 2>

町民の文化的機運の醸成及び生涯学習の推進を図り、シビックプライドの醸成に寄与する。

①茶の湯文化の振興

芦屋釜の里では、来園者が茶道文化にふれ、気軽に抹茶を飲むことができるように、呈茶や各種茶会等を実施しています。また、町内の幼・保育園児、小・中学校児童・生徒の体験茶会を実施しており、町内の子ども達が長期間に渡って茶の湯文化を体験する

取り組みを行っています。このような取り組みは全国的にも珍しく、芦屋町の教育の特徴ともなっています。

そこで引き続き、呈茶や各種茶会、子どもたちの茶の湯体験等の機会を通じて、茶の湯文化の振興に努め、日本の伝統文化の振興に寄与します。

○具体的施策

- ・各種茶会、茶道関連講座等の実施
- ・町内の幼・保育園児、小・中学生を対象とした茶の湯体験の実施
- ・来園者に対する茶の湯文化にふれる機会の提供

②生涯学習の推進

芦屋釜の里では、歴史・文化を継承発展させる学習機会を、広く地域住民に提供するとともに、ふるさと「芦屋」を誇りに思う地域の人々を育てるため、茶花の生け方や礼儀作法などの日本文化に関する講座、工房鋳物師による鋳物体験、子ども達の茶の湯体験等を実施しています。

引き続き、地域の人々の、ふるさと「芦屋」に対する誇りや愛着の醸成に努めるため、各種講座、イベント等の実施や芦屋釜の里で活動するボランティア団体への活動支援等を通して生涯学習の推進を図ります。

○具体的施策

- ・日本文化に関する各種講座の実施
- ・工房の鋳物師と連携した講座の実施
- ・栃木県佐野市との文化交流事業の実施
- ・芦屋釜及び芦屋釜復興に関する学習機会の提供
- ・芦屋釜の里サポーターズクラブへの活動支援

4-3<基本目標 3>

芦屋釜や芦屋釜の里を観光資源として活用し、地域の観光振興に貢献するとともに、芦屋釜や鋳物に関連する地域ブランドを創出する。

①観光資源としての活用

「芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「芦屋町観光基本構想」では、芦屋釜及び芦屋釜の里は重要な町の観光資源・観光拠点の一つとして位置付けられています。また、様々な資源や産業を結びつけ町全体の産業を振興し、観光基本構想における観光まちづくりを推進するための事業である「地域再生マネージャー事業」においても、芦屋釜と茶の湯文化は、独自固有の長所資源と位置づけられています。

そこで、国内外から多くの人に訪れてもらうため、芦屋釜や芦屋釜の里の情報発信を積極的に実施するとともに、施設滞在中の体験等の充実に努めます。

また、町内を回遊する観光客の増加のため、各施設との連携を図るとともに、近年増加傾向にある外国人観光客の対応策を充実させ、受入を推進します。

さらに、観光資源としてのポテンシャルを高めるため、地域再生マネージャー事業との連携を行います。

○具体的施策

- ・旅行会社等への周知や広告宣伝の積極的実施
- ・ホームページやSNSを活用した情報発信の充実
- ・イベントや体験プログラムの充実
- ・町内観光施設等と連携した回遊の仕組みづくり
- ・外国人観光客向けサービスの充実
- ・地域再生マネージャー事業との連携

② 鋳物の特産品開発・製作及び周知

芦屋釜を始めとする芦屋鋳物は、町の優れた工芸品でもあり、贈答品・お土産品等として高いニーズがあります。また、地域ブランドの育成・強化を図るなど地域を挙げて支援を行う芦屋町の「ふるさと名物」として特定し、町が「ふるさと名物応援宣言」をしています。

そこで、芦屋釜の里工房で製作する鋳物製品が、芦屋町の新たな特産品となるよう、開発・製作及び周知を進めます。

○具体的施策

- ・工房での鋳物製品の開発・製作及び周知の充実

第5章 計画の推進体制

5-1 庁内推進体制の整備

本計画は、芦屋釜の里に留まらず、地方創生推進及び観光推進、生涯学習推進などの分野にわたる施策に関わりがあります。

そこで関連する庁内各課・係と緊密な連携を図るとともに、計画の推進に係る協議を行っていきます。

5-2 住民参加による計画の推進

芦屋釜の里は様々な取り組みを進めるにあたり、専門的分野における外部見識者や技術者からの指導・助言や茶道界の協力を受けてきました。また、観光施策を進めるにあたって、民間の関係機関との情報共有や連携も進めてきました。

今後も、民間関係機関等との連携は継続していきますが、芦屋釜や芦屋釜の里が地域に根ざすためには、町の人々の理解や協力が必要となります。

そのため、住民一人ひとりが芦屋釜や芦屋釜の里に関心を持ち、地域の誇りとして認知し、本計画の推進に取り組むことができるよう、取り組みに関する情報を発信し、多くの住民が参加できる機会・場を提供していくことで、住民参加による計画の推進を図ります。

5-3 計画の進行管理

本計画の進行管理にあたっては、実施計画に各事業を計上するとともに、芦屋町目標管理制度に基づく事業評価や関連する各種計画における事業評価を活用することで、事業進捗状況の確認やその結果に対する評価と事業の見直しなどを行うPDCAサイクルを実施し、事業を推進していきます。

第2次芦屋釜の里振興計画

発行年月：平成30年〇月

発行：芦屋町・芦屋町教育委員会

所管：芦屋町教育委員会生涯学習課

TEL：093-223-5881

FAX：093-223-5882

